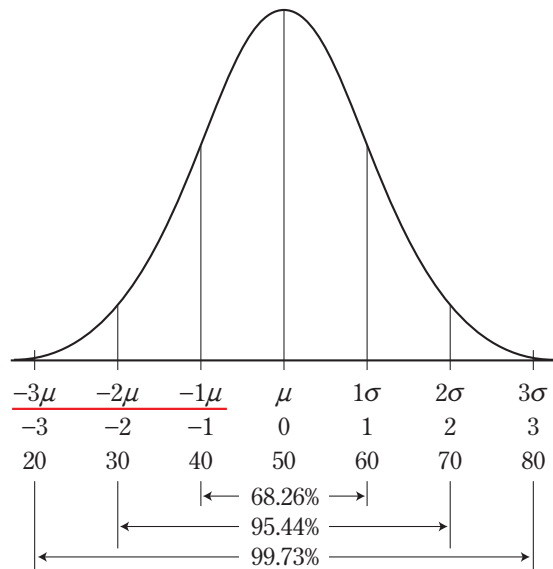


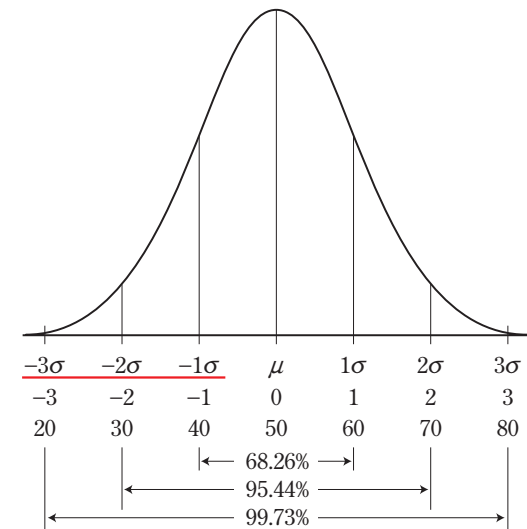
# ウルトラ・ビギナーのための SPSSによる統計解析入門 正誤表

P43  
図表2-11

誤



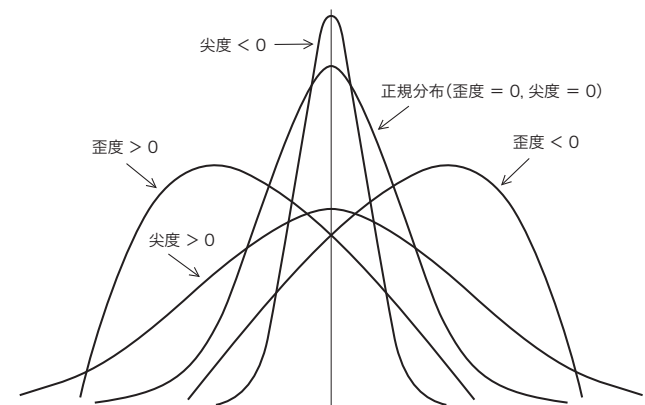
正



P51  
上から10・11行目

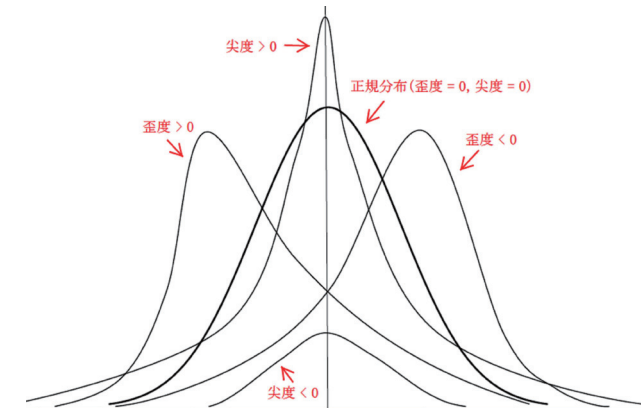
誤

尖度が正の場合はデータの分布は正規分布よりもスソが広がった形状になり、尖度が負の場合は正規分布よりもスソが短く、とがった形状になる。



正

尖度が正の場合はデータの分布は正規分布よりもスソが広く、とがった形状になり、尖度が負の場合は正規分布よりもスソが短く、平べったい形状になる。



P92  
上から10行目

誤

重回帰モデルある。

正

重回帰モデルである。

P97  
図表3-28下段

誤

モデル	R	決定係数 R <sup>2</sup> 乗	自由度調整済み 決定係数 調整済み R <sup>2</sup> 乗	推定値の 標準誤差 4.436	変化				
					R <sup>2</sup> 乗変化量	F変化量	自由度1	自由度2	有意確率 F変化量
1	.196*	.038	.026		.038	3.188	3	240	.024

a. 予測値: (定数), 年間世帯所得, 世帯人数, 年齢.

モデル	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
1	188.216	3	62.739	3.188	.024*
回帰	188.216	3	62.739	3.188	.024*
残差	4723.571	240	19.682		
全体	4911.787	243			

a. 予測値: (定数), 年間世帯所得, 世帯人数, 年齢.  
b. 従属変数: 老後幸福感

正

モデル	R	決定係数 R <sup>2</sup> 乗	自由度調整済み 決定係数 調整済み R <sup>2</sup> 乗	推定値の 標準誤差 4.436	変化				
					R <sup>2</sup> 乗変化量	F変化量	自由度1	自由度2	有意確率 F変化量
1	.196*	.038	.026		.038	3.188	3	240	.024

a. 予測値: (定数), 年間世帯所得, 世帯人数, 年齢.

モデル	平方和	自由度	平均平方	F値	有意確率
1	188.216	3	62.739	3.188	.024*
回帰	188.216	3	62.739	3.188	.024*
残差	4723.571	240	19.682		
全体	4911.787	243			

a. 予測値: (定数), 年間世帯所得, 世帯人数, 年齢.  
b. 従属変数: 老後幸福感

P143  
中段の式

誤

$$\text{判別式} = \frac{\text{実際のグループと予測グループが一致したケース数}}{\text{全ケース数}}$$

$$= \frac{7+6}{14} = 0.92857$$

正

$$\text{判別率} = \frac{\text{実際のグループと予測グループが一致したケース数}}{\text{全ケース数}}$$

$$= \frac{7+6}{14} = 0.92857$$

P185  
中段

誤

「第3次産業就業者」

正

「第2次産業就業者」

P246  
中段

誤

「各グループの分散は等しい」という帰無仮説を棄却できない。

正

「各グループの分散は等しい」という帰無仮説は棄却される。

P246  
図表6-34

誤

現在の給与	平均値同等性の耐久検定			
	統計	自由度1	自由度2	有意
Welch	44.282	4	199.842	.000
Brown-Forsythe	29.251	4	250.687	.000

正

現在の給与	平均値同等性の耐久検定			
	統計	自由度1	自由度2	有意
Welch	44.282	4	199.842	.000
Brown-Forsythe	29.251	4	250.687	.000

a. 漸近的 F 分布